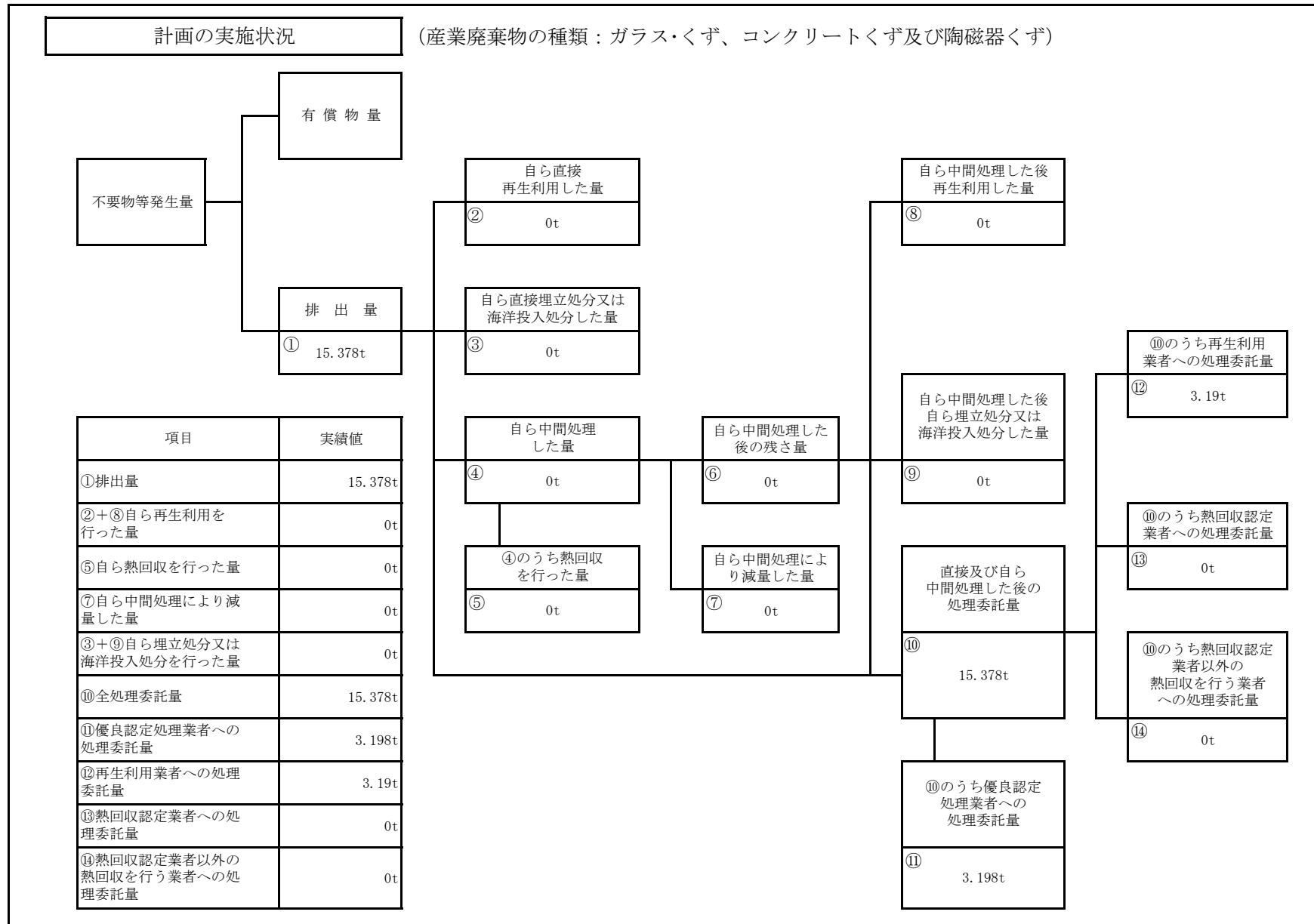


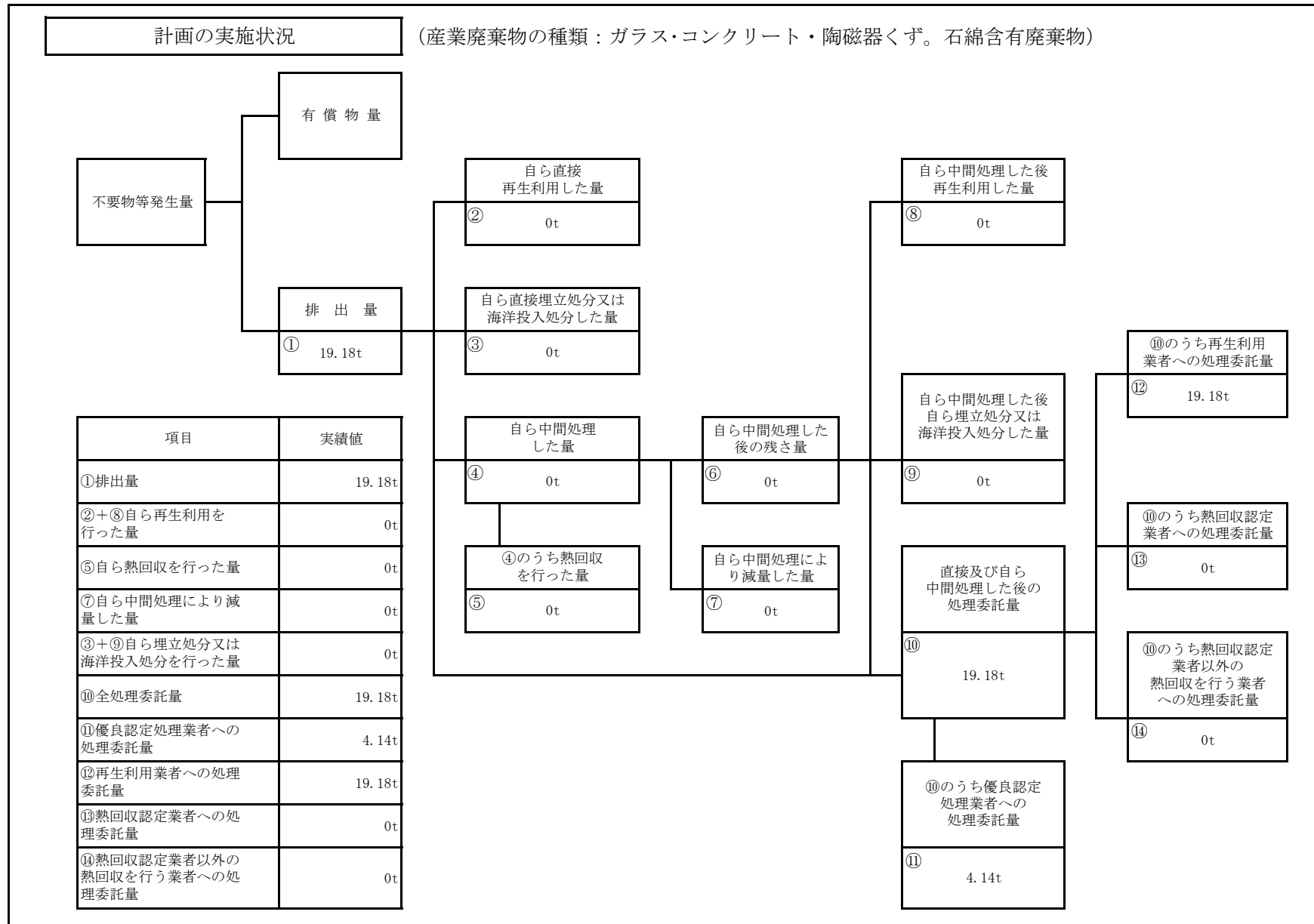
様式第二号の九(第八条の四の六関係)

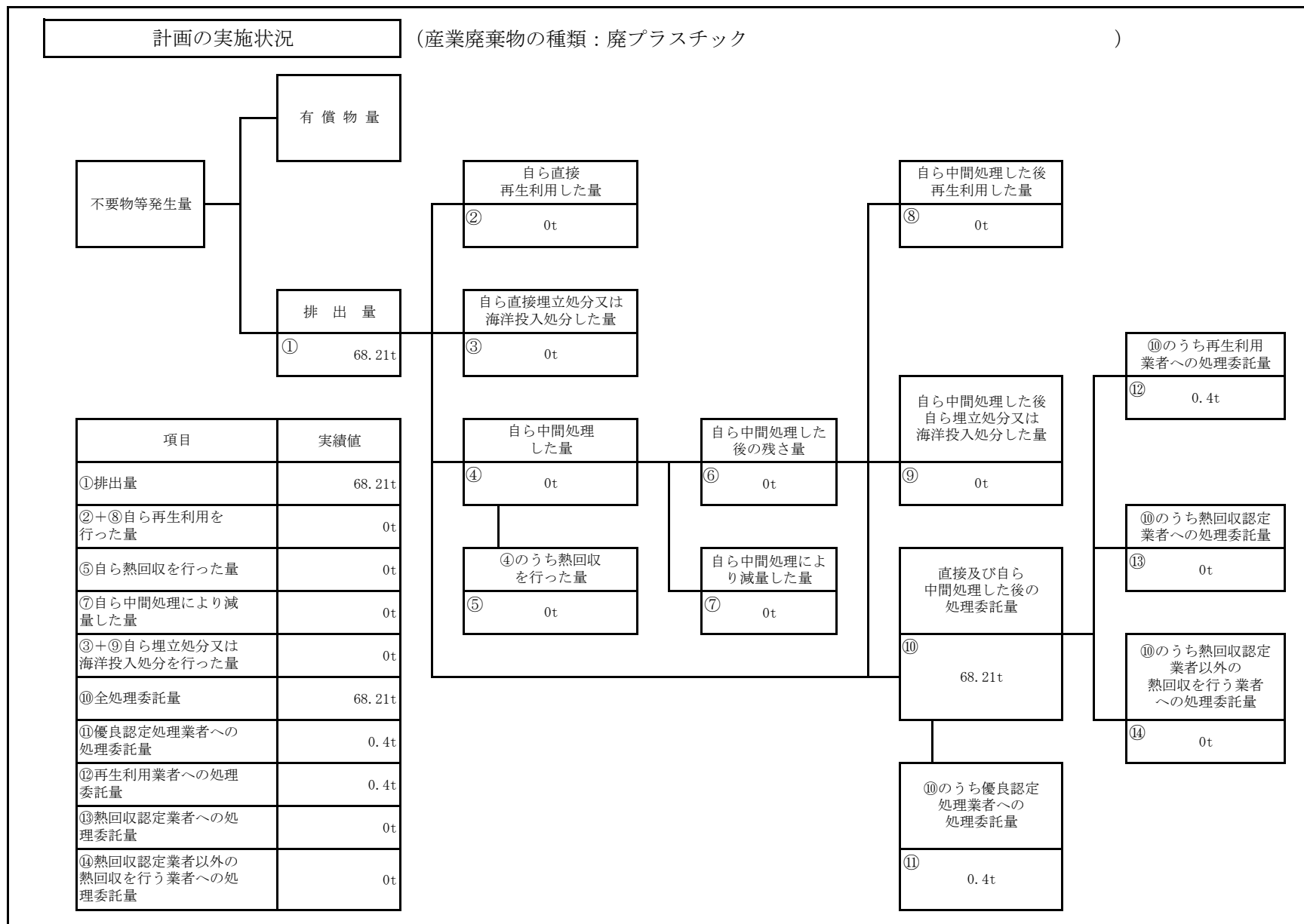
(第1面)

産業廃棄物処理計画実施状況報告書 令和 6年 5月 11日 北九州市長 武内 和久 様 提出者 住 所 北九州市若松区南二島5丁目5番1 氏 名 株式会社 船元建設工業 代表取締役 船元 泰博 電話番号 093-791-2133 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和5年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。			
事業場の名称	株式会社 船元建設工業		
事業場の所在地	北九州市若松区南二島5丁目5番1		
事業の種類	建設業		
産業廃棄物処理計画における計画期間	令和5年4月1日 ~ 令和6年3月31日		
産業廃棄物処理計画における目標値			
項目	目標値	項目	目標値
排出量	2318.95 t	全処理委託量	1971.59 t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	347.21 t	優良認定処理業者への処理委託量	152.048 t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	再生利用業者への処理委託量	172.08 t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者への処理委託量	0 t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t
※事務処理欄			

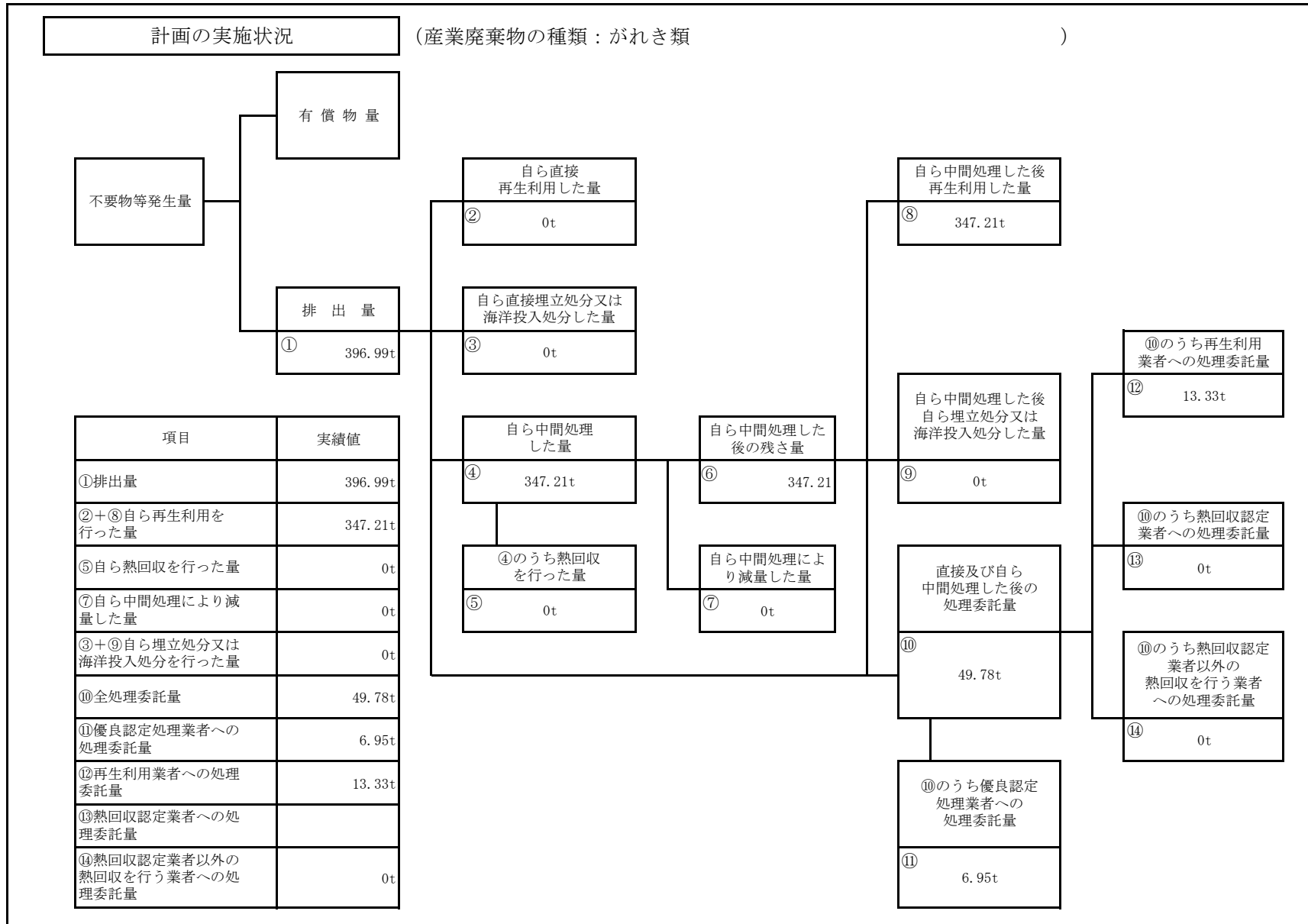
(日本工業規格 A列4番)

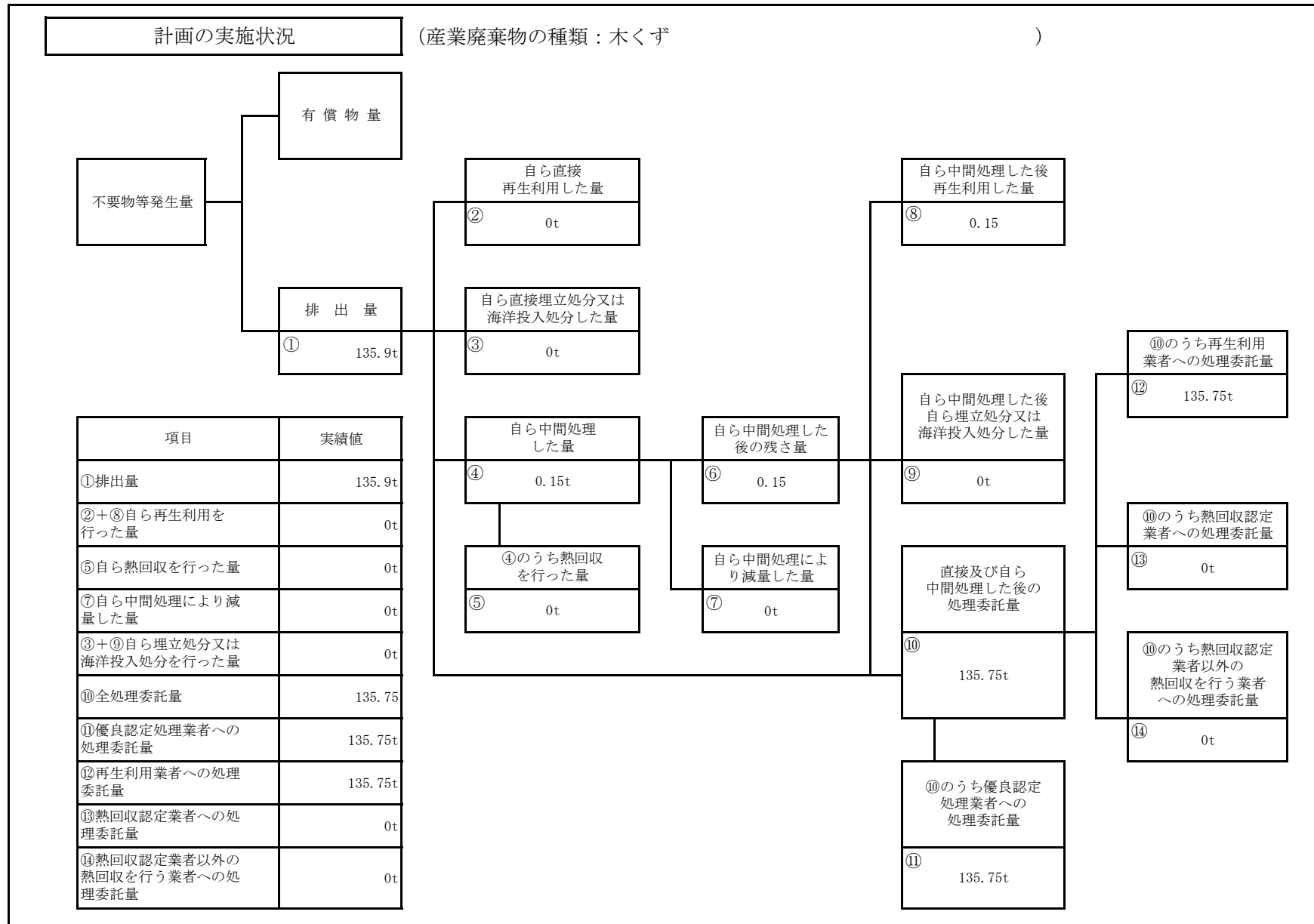


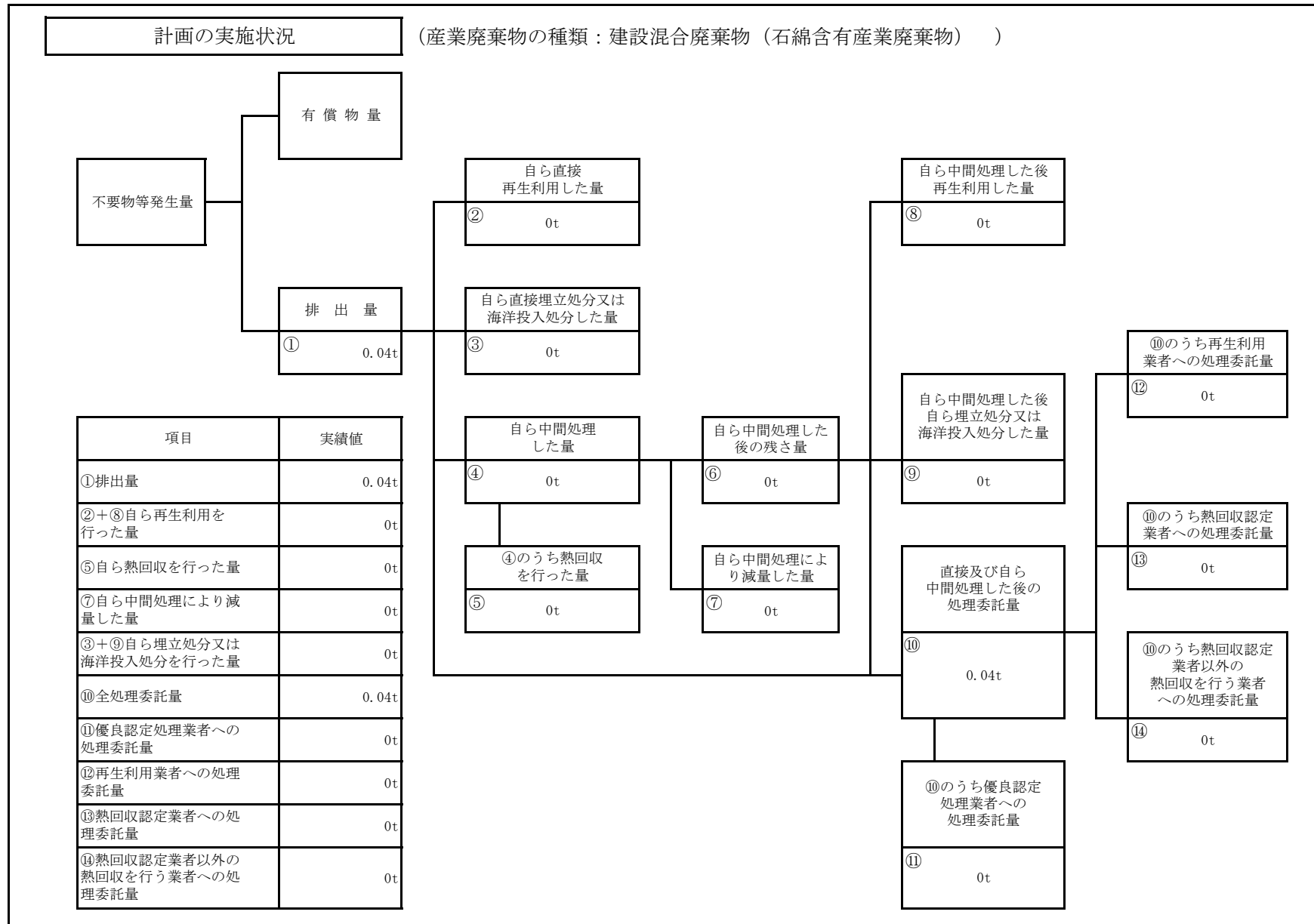


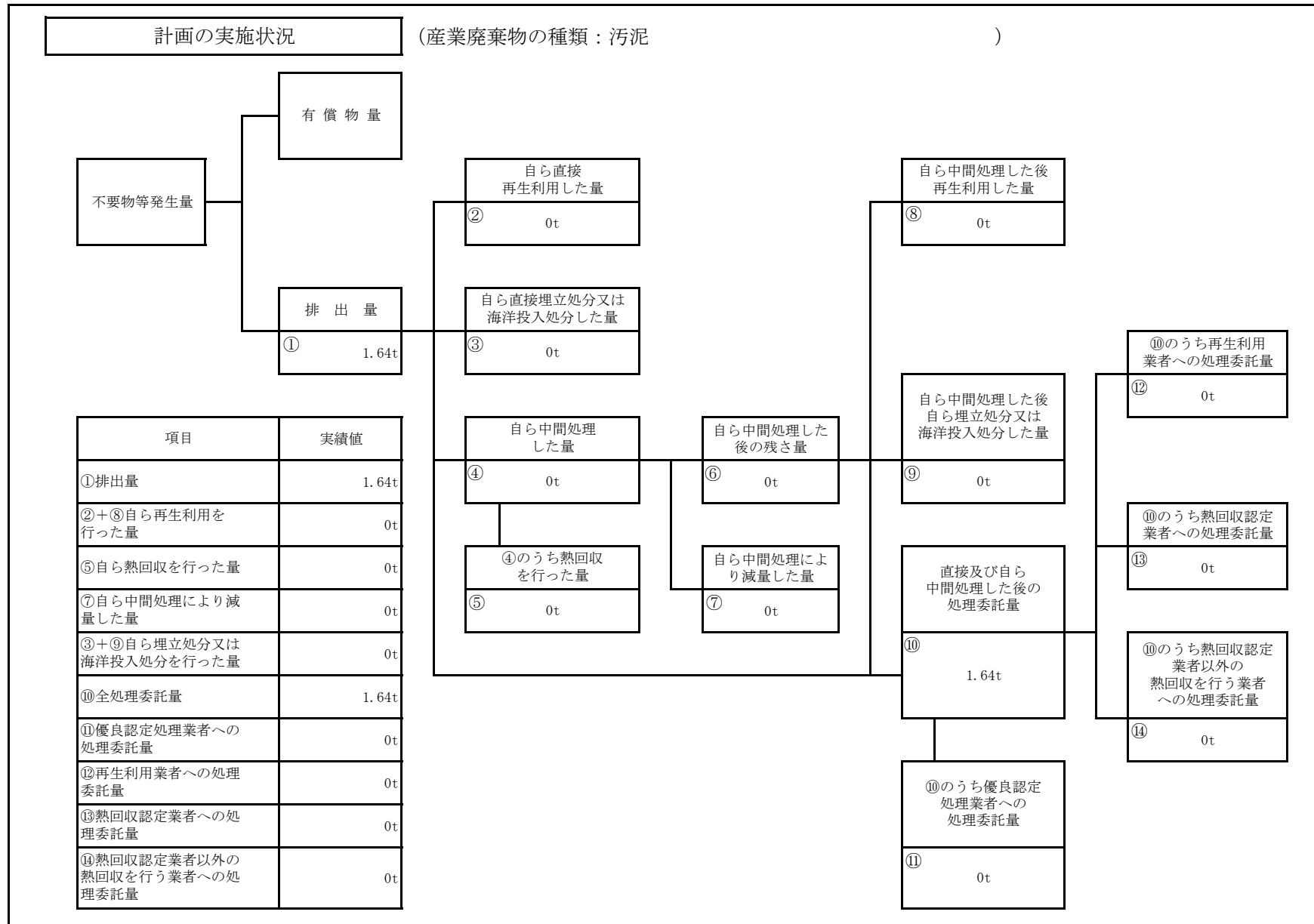


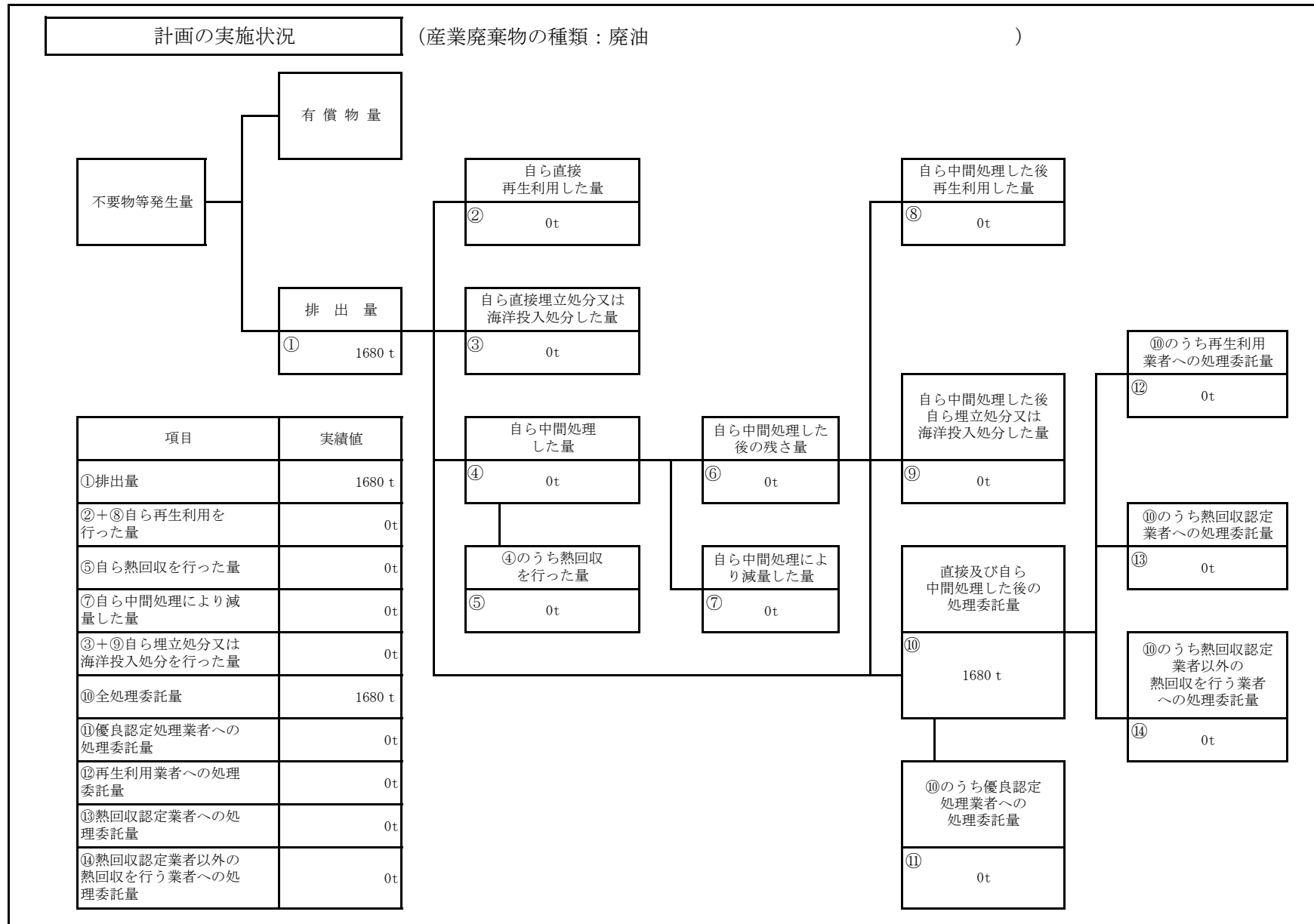
(第2面)

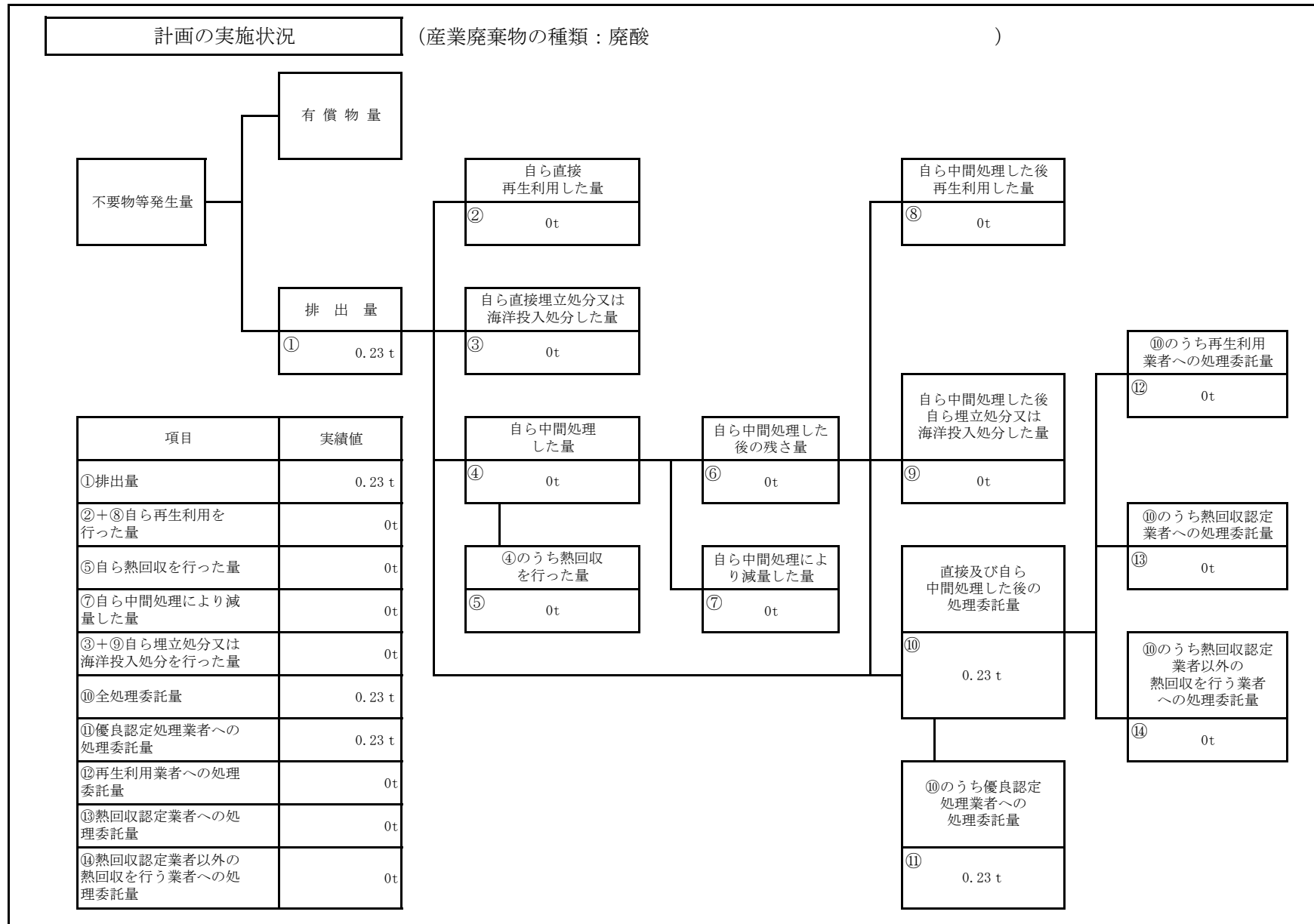












(第3面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 6年 5月 11日

北九州市長 武内 和久 様

提出者
住 所 北九州市若松区南二島5丁目5番1号
氏 名 株式会社 船元建設工業
代表取締役 船元 泰博
電話番号 093-791-2133

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

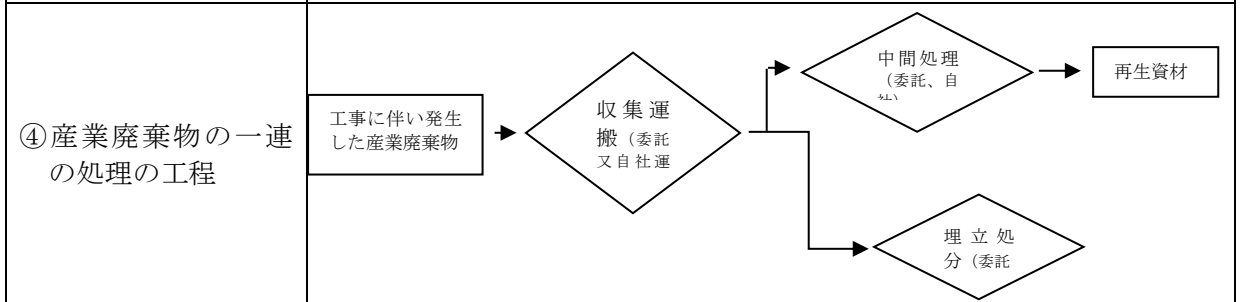
事業場の名称	株式会社 船元建設工業
--------	-------------

事業場の所在地	北九州市若松区南二島5丁目5番1号
---------	-------------------

計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日
------	---------------------

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

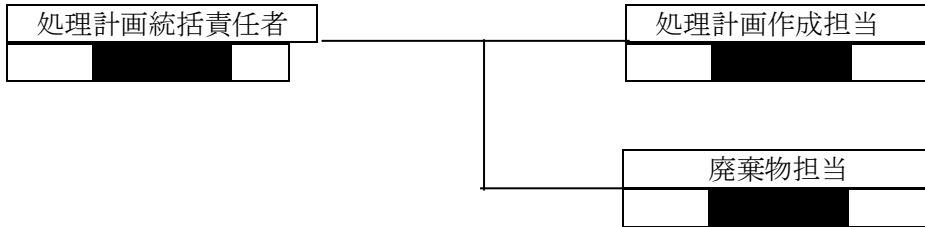
① 事業の種類	建設業
② 事業の規模	11億9千3百万円
③ 従業員数	46人



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) 工法の見直しを進め、前々年度に比べて廃棄物発生量を削減している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 更なる工法の見直しを行い、余分な資材の搬入を防ぐなどし、廃棄物の発生量を抑制する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類について、現場にて手選別を徹底し、再生利用できるものを分別する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組) 特になし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組) がれき類について、移動式破砕機を用いては再処理し、粒度を調整した上、土木資材として利用する。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) これまでに、自社で埋立処分又は海洋投入処分を行ったことはない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後も埋立処分及び海洋投入処分を行う予定はない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組) がれき類の一部は、再生資材を背増資販売している処理業者へ委託している。			

②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t
	再生利用業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>できる限り再生利用業者へ委託するとともに、優良認定を受けた処理業者に委託を行う。</p> <p>また、がれき類については、破碎処理し、土木資材として再利用することにより、処理委託料の減量化を図る。</p>		
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

令和5年度産業廃棄物排出実績

産業廃棄物の種類	排出量 (t)
廃石綿等（飛散性	1.38
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	15.378
ガラス・コンクリート・陶磁器くず(石綿含有廃棄物)	19.18
廃プラスチック	68.21
がれき	396.99
木くず	135.9
建設混合廃棄物（石綿含有廃棄物）	0.04
汚泥(汚状のもの)	1.64
廃油	1680
廃酸	0.23
合 計	2,318.948

令和6年度排出計画

産業廃棄物の種類	排出量 (t)
がれき	1000
木くず	100
廃プラ	50
廃油	1
合 計	1,151.00

令和5年自ら再生利用を行った産業廃棄物

産業廃棄物の種類	排出量 (t)
廃石綿	0
金属くず	0
管理型混合廃棄物	0
ガラス、コンクリート、陶磁器くず	0
廃プラ	0
がれき	347.21
木くず	0
繊維くず	0
建設混合廃棄物（石綿含有廃棄物）	0
建設混合廃棄物	0
燃えがら	0
廃油	0
紙屑	0
合 計	347.21

令和6年度再生利用計画

産業廃棄物の種類	排出量 (t)
がれき	500
木くず	0
廃プラ	0
廃油	0
合 計	500.00

令和5年度自ら行った中間処理実績

産業廃棄物の種類	熱回収を行った産廃量 (t)	減量した産廃量 (t)
廃石綿	0	0
金属くず	0	0
管理型混合廃棄物	0	0
ガラス、コンクリート、陶磁器くず	0	0
廃プラ	0	0
がれき	0	0
木くず	0	0
繊維くず	0	0
建設混合廃棄物（石綿含有廃棄物）	0	0
建設混合廃棄物	0	0
燃えがら	0	0
廃油	0	0
紙屑	0	0
合 計	0.00	0.00

令和6年中間処理計画

産業廃棄物の種類	熱回収を行った産廃量 (t)	減量した産廃量 (t)
がれき	0	0
木くず	0	0
廃プラ	0	0
廃油	0	0
合 計	0.00	0.00

令和5年埋立又は海洋投入処分実績

産業廃棄物の種類	埋立、海洋投入した量 (t)
廃石綿	0
金属くず	0
管理型混合廃棄物	0
ガラス、コンクリート、陶磁器くず	0
廃プラ	0
がれき	0
木くず	0
繊維くず	0
建設混合廃棄物（石綿含有廃	0
建設混合廃棄物	0
燃えがら	0
廃油	0
紙屑	0
合 計	0.00

令和6年埋立、海洋投入計画

産業廃棄物の種類	埋立、海洋投入した量 (t)
がれき類	0
木くず	0
廃プラスチック	0
廃油	0
合 計	0.00

